



平成23年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成23年2月2日

上場取引所 東

上場会社名 株式会社 クラレ

コード番号 3405 URL <http://www.kuraray.co.jp>

代表者 (役職名) 代表取締役社長

(氏名) 伊藤 文大

問合せ先責任者 (役職名) 経営企画室 IR・広報部長

(氏名) 中山 守弘

TEL 03-6701-1070

四半期報告書提出予定日 平成23年2月14日

配当支払開始予定日 ー

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成23年3月期第3四半期の連結業績(平成22年4月1日～平成22年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
23年3月期第3四半期	270,427	11.4	39,546	102.0	38,416	106.0	22,402	84.5
22年3月期第3四半期	242,653	△19.6	19,576	△30.0	18,649	△27.7	12,145	△24.6

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
23年3月期第3四半期	64.35	64.23
22年3月期第3四半期	34.88	34.85

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
23年3月期第3四半期	496,909	342,759	68.3	974.11
22年3月期	502,815	337,818	66.5	961.24

(参考) 自己資本 23年3月期第3四半期 339,184百万円 22年3月期 334,583百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
22年3月期	—	8.00	—	8.00	16.00
23年3月期	—	13.00	—		
23年3月期 (予想)				14.00	27.00

(注) 当四半期における配当予想の修正有無 無

3. 平成23年3月期の連結業績予想(平成22年4月1日～平成23年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	365,000	9.6	52,000	70.8	50,000	72.9	28,500	74.7	81.86

(注) 当四半期における業績予想の修正有無 無

4. その他（詳細は、添付資料 4 ページ「2. その他の情報」をご覧ください。）

(1) 当四半期中における重要な子会社の異動 無

新規 一社（社名 ）、除外 一社（社名 ）
(注) 当四半期会計期間における連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動の有無となります。

(2) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の適用 有

(注) 簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用の有無となります。

(3) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更

① 会計基準等の改正に伴う変更 有

② ①以外の変更 無

(注) 「四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更」に記載される四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の有無となります。

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む) 23年3月期3Q 382,863,603株 22年3月期 382,863,603株

② 期末自己株式数 23年3月期3Q 34,665,953株 22年3月期 34,790,071株

③ 期中平均株式数(四半期累計) 23年3月期3Q 348,153,844株 22年3月期3Q 348,214,099株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

・この四半期短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は終了していません。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

・本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件および業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、四半期決算短信(添付資料) 4 ページ「(3) 連結業績予想に関する定性的情報」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期の連結業績等に関する定性的情報	2
(1) 連結経営成績に関する定性的情報	2
(2) 連結財政状態に関する定性的情報	3
(3) 連結業績予想に関する定性的情報	4
2. その他の情報	4
(1) 重要な子会社の異動の概要	4
(2) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の概要	4
(3) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の概要	4
3. 四半期連結財務諸表	6
(1) 四半期連結貸借対照表	6
(2) 四半期連結損益計算書	8
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	9
(4) 継続企業の前提に関する注記	10
(5) セグメント情報	10
(6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記	10
4. 参考情報（セグメント別補足情報）	11
売上高および利益または損失の金額に関する補足情報	11

1. 当四半期の連結業績等に関する定性的情報

(1) 連結経営成績に関する定性的情報

当第3四半期連結累計期間(平成22年4月1日～平成22年12月31日)の経営環境は、中国をはじめとする新興国経済の好調さに加え、欧米の景気も総じて回復に向かったことにより、当社グループが取り扱う製品の需要が次第に拡大してきました。

一方で、期後半の急激な円高、原燃料価格の上昇、およびそれに伴う日本経済の減速懸念など、予断を許さない状況が続きました。こうした中で当社グループは、引続き固定費削減をはじめとする収益構造改善策に全社を挙げて取り組みました。さらに中期アクションプラン『GS-Twins』に掲げた事業拡大、成長に向けた積極的な施策も順次実行しています。

当第3四半期連結累計期間におきましては、上述の収益構造改善効果の発現や液晶関連の需要が拡大したことに加え、ポパール樹脂、<エパール>、イソプレン、メタクリルなどの基幹事業も需要回復に伴い売上げを伸ばしました。また、販売数量拡大に伴い各事業の設備稼働率も改善しました。

この結果、売上高は270,427百万円(前年同期比11.4%増)、営業利益は39,546百万円(同102.0%増)、経常利益は38,416百万円(同106.0%増)、四半期純利益は22,402百万円(同84.5%増)と増収・増益となりました。

(参考) 連結経営成績の推移(四半期別)

(単位:百万円)

	平成22年3月期				平成23年3月期		
	第1 四半期	第2 四半期	第3 四半期	第4 四半期	第1 四半期	第2 四半期	第3 四半期
売上高	72,910	84,154	85,588	90,226	87,715	93,060	89,651
営業利益	1,730	8,025	9,787	10,875	12,534	12,916	14,042
経常利益	1,512	7,896	9,240	10,276	11,983	13,012	13,420
四半期純利益	138	5,082	6,923	4,170	5,699	8,213	8,489

前年同期と比較したセグメント別の状況は以下のとおりです。なお、当社の海外子会社の当第3四半期連結累計期間は平成22年1月1日～平成22年9月30日となっています。

当年度は「セグメント情報等の開示に関する会計基準」および「セグメント情報等の開示に関する会計基準に関する適用指針」の導入初年度であるため、上記「1. 当四半期の連結業績等に関する定性的情報」において比較、分析に用いた前年同期数値は、独立監査人による四半期レビューを受けていません。

セグメント別の状況

[樹脂]

樹脂事業は、各事業とも中国を含むアジア市場に加え、欧米でも需要が堅調に推移しました。その結果、売上高は110,594百万円(前年同期比10.4%増)、営業利益は37,904百万円(同38.1%増)となりました。

①ポパール樹脂は、中国を含むアジア市場および欧州市場が好調に推移しました。これを受け、欧州のプラント増設(年産24,000t)を決定しました(平成25年度第1四半期稼働予定)。光学用ポパールフィルムは、期央に偏光板メーカーの生産調整の影響を受けたものの、全体的には旺盛な液晶テレビの需要を背景に伸長しました。これを受け、西条事業所の新ライン(年産2,000万㎡)の増設に着手しました(平成24年度第1四半期稼働予定)。PVBフィルムは、太陽光発電向け封止材用途の拡大に加え、欧州建築市場、自動車用途が順調に回復してきました。

②EVOH樹脂<エパール>は、新興諸国向けの需要が拡大し、特にアジア市場は自動車用途、食品包装用途を中心に一層の伸びを示しました。欧米では食品包装用途、自動車用途の需要が堅調に推移しました。さらに、冷蔵庫の真空断熱板向けが国内外で採用が進むなど、新規用途の販売も拡大しています。

[化学品]

化学品事業は、全般に好調に推移しました。その結果、売上高は56,215百万円(前年同期比17.3%増)、営業利益は5,941百万円(前年同期は97百万円の損失)となりました。

- ① メタクリル樹脂は、成形材料およびシートともに堅調に推移しました。さらに、市況改善も加わり、収益は拡大しました。
- ② イソプレンは、熱可塑性エラストマー<セプトン>、液状ゴムが順調に拡大し、好調に推移しました。化学品・ファインケミカルも国内・アジアを中心に販売が拡大し、製品の高付加価値化が進みました。
- ③ メディカルは、歯科材料が欧米における新タイプのコンポジットレジン、ボンドの市場投入や販売体制強化の効果などもあり、堅調に推移しました。
なお、歯科材料事業の強化・拡大のため、クラレメディカル株式会社は、株式会社ノリタケデンタルサプライと平成23年4月1日をもって事業統合します。
- ④ 耐熱性ポリアミド樹脂<ジェネスタ>は、コネクタ用途など電子部材向けおよび液晶テレビなどに使用されるLED反射板用途ともに、堅調に推移しました。

[繊維]

繊維事業は、ビニロンをはじめほぼ全事業において需要回復が進みました。その結果、売上高は45,507百万円(前年同期比6.7%増)、営業損失は128百万円(前年同期は1,988百万円の損失)となりました。

- ① ビニロンは、自動車用ブレーキホース用途、一次電池セパレータ用途の需要が拡大しました。また、アスベスト代替のFRC(繊維補強セメント)用途の需要も期を通じて堅調に推移しました。
- ② 人工皮革<クラリーノ>は、環境対応型新プロセス品の需要が靴・手袋などの用途で拡大するとともに、既存高付加価値品も回復基調にあります。なお、当事業は抜本的な事業構造の改革に取り組んでおり、汎用品の生産は中国合弁会社へ生産シフトし、高付加価値品については国内の新プロセスへの集約を推進しています。
- ③ 不織布<クラフレックス>は、工業用ワイパーが堅調ながら、業務用カウンタークロスや産業用マスク需要が停滞しました。面ファスナー<マジックテープ>は、自動車・住宅関連が低調ながら、産業資材、メディカル、鉄道関連の需要は堅調に推移しました。

[トレーディング]

トレーディング事業は、ポリエステルをはじめ繊維関連事業(衣料、資材分野)において、差別化素材の採用が順調に拡大しました。樹脂・化学品・化成産品事業はアジアを中心に順調に拡大しました。その結果、売上高は85,887百万円(前年同期比14.8%増)、営業利益は2,348百万円(同84.7%増)となりました。

- ① 衣料分野は、ユニフォームやスポーツ用途を中心に新商品の採用や高付加価値品が好調で、全用途で販売が順調に拡大しました。
- ② 資材分野は、メディカル関連、靴用資材が好調な需要を背景に堅調に推移しました。産業資材は自動車用資材他がアジア向けを中心に大きく伸長しました。
- ③ 樹脂・化学品・化成産品事業は、溶剤などの化学品、工業膜、アルカリ性水溶性ポリマー<イソバン>、エラストマーの加工品などの付加価値型事業が順調に拡大しました。

[その他]

その他の事業は、売上高は42,079百万円(前年同期比16.9%増)、営業利益は3,807百万円(同26.0%増)となりました。

活性炭はキャパシタ(蓄電装置)、浄水器用途などで堅調に推移しました。それ以外の事業は徐々に回復しました。

(2) 連結財政状態に関する定性的情報

資産、負債および純資産の状況

総資産は、固定資産の減少などにより前連結会計年度末比5,906百万円減の496,909百万円となりました。負債は、前連結会計年度末比10,846百万円減の154,150百万円となりました。純資産は、前連結会計年度末比4,940百万円増加し、342,759百万円となりました。自己資本は339,184百万円となり、自己資本比率は68.3%となりました。

キャッシュ・フローの状況

[営業活動によるキャッシュ・フロー]

税金等調整前四半期純利益35,916百万円、減価償却費24,756百万円、仕入債務の増加3,539百万円などの収入に対し、売上債権の増加3,446百万円、たな卸資産の増加6,735百万円、法人税等の支払額9,242百万円などの支出で、営業活動によるキャッシュ・フローは47,095百万円の収入となりました。前年同期比では10,503百万円収入が減少しました。

[投資活動によるキャッシュ・フロー]

有形及び無形固定資産の取得13,512百万円などの支出に対し、有価証券の減少による32,980百万円の収入等で、投資活動によるキャッシュ・フローは27,740百万円の収入となりました。

[財務活動によるキャッシュ・フロー]

配当金の支払7,310百万円、コマーシャル・ペーパーの減少6,000百万円、長期借入金の返済4,645百万円などの支出で、財務活動によるキャッシュ・フローは18,377百万円の支出となりました。

以上から、当第3四半期連結累計期間におけるキャッシュ・フローは、合計で56,459百万円の収入となり、その結果、当第3四半期連結会計期間末の現金及び現金同等物の残高は、前連結会計年度末より55,317百万円増加して71,730百万円となりました。

(3) 連結業績予想に関する定性的情報

通期業績予想については、原燃料価格高騰などの懸念材料はあるものの、基幹事業が堅調に推移すると予想されることから、前回予想(平成22年10月28日)からの変更はありません。

なお、第4四半期以降の平均為替は米ドル82円、ユーロ110円、国産ナフサ価格は51千円を前提としています。

2. その他の情報

(1) 重要な子会社の異動の概要

該当事項はありません。

(2) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の概要

①簡便な会計処理

連結財務諸表における重要性が乏しい一部の連結子会社は、四半期財務諸表における税金費用の計算にあたり、税引前四半期純利益に前年度の損益計算書における税効果会計適用後の法人税等の負担率を乗じて計算しています。

②四半期連結財務諸表に特有の会計処理

該当事項はありません。

(3) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の概要

①会計処理方法の変更

(資産除去債務に関する会計基準)

第1四半期連結会計期間より、「資産除去債務に関する会計基準」(企業会計基準第18号 平成20年3月31日)および「資産除去債務に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第21号 平成20年3月31日)を適用しています。

これにより、営業利益および経常利益に与える影響は軽微であり、税金等調整前四半期純利益は、1,550百万円減少しています。また、当会計基準などの適用開始による資産除去債務の変動額は1,564百万円です。

なお、在外子会社で認識している資産除去債務については、前連結会計年度まで固定負債の「その他」に含めて表示していましたが、前連結会計年度との比較可能性を保つため組み替えて表示しています。

②表示方法の変更

(四半期連結損益計算書)

「連結財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第22号 平成20年12月26日)に基づく「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則等の一部を改正する内閣府令」(平成21年3月24日 内閣府令5号)の適用により、当第3四半期連結累計期間では、「少数株主損益調整前四半期純利益」の科目で表示しています。

なお、前第3四半期連結累計期間についても比較可能性を保つため表示しています。

3. 四半期連結財務諸表

(1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	当第3四半期連結会計期間末 (平成22年12月31日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成22年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	26,661	28,991
受取手形及び売掛金	77,529	75,923
有価証券	88,991	73,978
商品及び製品	41,550	38,829
仕掛品	8,558	8,044
原材料及び貯蔵品	12,174	10,972
繰延税金資産	4,920	5,824
その他	7,125	7,366
貸倒引当金	△661	△604
流動資産合計	266,849	249,326
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	34,150	34,880
機械装置及び運搬具（純額）	85,051	96,170
土地	18,024	18,230
建設仮勘定	8,581	11,560
その他（純額）	2,703	2,867
有形固定資産合計	148,510	163,709
無形固定資産		
のれん	14,108	17,941
その他	3,068	3,848
無形固定資産合計	17,176	21,790
投資その他の資産		
投資有価証券	47,142	49,006
長期貸付金	1,287	1,279
繰延税金資産	5,021	6,570
前払年金費用	6,354	6,666
その他	4,912	4,999
貸倒引当金	△347	△532
投資その他の資産合計	64,371	67,989
固定資産合計	230,059	253,489
資産合計	496,909	502,815

(単位：百万円)

	当第3四半期連結会計期間末 (平成22年12月31日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成22年3月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	29,778	27,235
短期借入金	8,384	12,158
コマーシャル・ペーパー	—	6,000
1年内償還予定の社債	10,000	—
未払法人税等	7,329	6,038
賞与引当金	3,837	6,129
その他の引当金	3	138
その他	17,144	18,850
流動負債合計	76,476	76,550
固定負債		
社債	—	10,000
長期借入金	45,033	46,502
繰延税金負債	4,936	5,524
退職給付引当金	14,654	14,248
役員退職慰労引当金	146	167
環境対策引当金	1,126	1,275
資産除去債務	2,326	812
その他	9,450	9,915
固定負債合計	77,673	88,446
負債合計	154,150	164,996
純資産の部		
株主資本		
資本金	88,955	88,955
資本剰余金	87,162	87,192
利益剰余金	219,162	204,070
自己株式	△40,921	△41,068
株主資本合計	354,358	339,150
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	2,568	3,767
繰延ヘッジ損益	△20	△103
為替換算調整勘定	△17,722	△8,230
評価・換算差額等合計	△15,174	△4,566
新株予約権	430	186
少数株主持分	3,144	3,048
純資産合計	342,759	337,818
負債純資産合計	496,909	502,815

(2) 四半期連結損益計算書

【第3四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年12月31日)
売上高	242,653	270,427
売上原価	175,083	181,475
売上総利益	67,569	88,951
販売費及び一般管理費		
販売費	12,518	13,625
一般管理費	35,474	35,779
販売費及び一般管理費合計	47,993	49,405
営業利益	19,576	39,546
営業外収益		
受取利息	304	287
受取配当金	1,106	1,070
持分法による投資利益	52	29
その他	792	686
営業外収益合計	2,254	2,073
営業外費用		
支払利息	1,052	861
その他	2,128	2,341
営業外費用合計	3,181	3,203
経常利益	18,649	38,416
特別利益		
事業譲渡益	657	—
特別利益合計	657	—
特別損失		
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	—	1,548
投資有価証券評価損	177	525
固定資産廃棄損	—	219
構造改善特別損失	1,115	206
減損損失	618	—
特別損失合計	1,911	2,499
税金等調整前四半期純利益	17,395	35,916
法人税、住民税及び事業税	5,840	10,805
法人税等調整額	△676	2,600
法人税等合計	5,164	13,406
少数株主損益調整前四半期純利益	12,231	22,510
少数株主利益	86	107
四半期純利益	12,145	22,402

(3) 【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年12月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	17,395	35,916
減価償却費	26,698	24,756
固定資産廃棄損	—	219
減損損失	618	—
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	—	1,548
投資有価証券評価損	177	525
事業譲渡損益(△は益)	△657	—
売上債権の増減額(△は増加)	△8,049	△3,446
たな卸資産の増減額(△は増加)	13,503	△6,735
仕入債務の増減額(△は減少)	4,108	3,539
その他	2,782	△496
小計	56,576	55,827
法人税等の支払額又は還付額(△は支払)	589	△9,242
その他	433	510
営業活動によるキャッシュ・フロー	57,599	47,095
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の純増減額(△は増加)	△12,882	9,652
有価証券の純増減額(△は増加)	△62,963	32,980
有形及び無形固定資産の取得による支出	△17,414	△13,512
投資有価証券の取得による支出	△580	△374
その他	57	△1,004
投資活動によるキャッシュ・フロー	△93,784	27,740
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額(△は減少)	△5,443	△218
コマーシャル・ペーパーの増減額(△は減少)	5,000	△6,000
長期借入れによる収入	12,000	—
長期借入金の返済による支出	—	△4,645
配当金の支払額	△6,267	△7,310
その他	△379	△202
財務活動によるキャッシュ・フロー	4,908	△18,377
現金及び現金同等物に係る換算差額	△33	△1,141
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△31,309	55,317
現金及び現金同等物の期首残高	46,157	16,412
現金及び現金同等物の四半期末残高	14,848	71,730

(4) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(5) セグメント情報

①報告セグメントの概要

当社の報告セグメントは、当社の構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が経営資源の配分の決定および業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものです。

当社は、カンパニー制を導入しており、各カンパニーは取り扱う製品等について国内および海外の包括的な戦略を立案し、事業活動を展開しています。また、子会社のうち、クラレトレーディングは、クラレグループ製品の加工販売や他社製品の取り扱いを含め、独自に企画・販売する事業を主体的に行っています。

したがって、当社は、カンパニーを基礎とした製品別のセグメントと、トレーディングセグメントで構成されており、「樹脂」、「化学品」、「繊維」および「トレーディング」の4つを報告セグメントとしています。

「樹脂」は、ポパール、PVB、＜エパール＞等の機能樹脂、フィルムを生産・販売しています。「化学品」はメタクリル樹脂、イソプレン関連製品、＜ジェネスタ＞、メディカル関連製品を生産・販売しています。「繊維」は、合成繊維、人工皮革、不織布等を生産・販売しています。「トレーディング」は、合成繊維、人工皮革等を加工・販売している他、その他のクラレグループ製品および他社製品の企画・販売を行っています。

②報告セグメントごとの売上高および利益または損失の金額に関する情報

当第3四半期連結累計期間（自 平成22年4月1日 至 平成22年12月31日）

（単位：百万円）

	報告セグメント					その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	樹脂	化学品	繊維	トレー ディ ング	計				
売上高									
外部顧客への 売上高	87,647	35,063	31,574	83,421	237,707	32,720	270,427	-	270,427
セグメント間 の内部売上高 又は振替高	22,946	21,152	13,932	2,465	60,497	9,359	69,856	△69,856	-
計	110,594	56,215	45,507	85,887	298,204	42,079	340,284	△69,856	270,427
セグメント利益 又は損失	37,904	5,941	△128	2,348	46,067	3,807	49,875	△10,329	39,546

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、活性炭、アクア事業、エンジニアリング事業を含んでいます。

2. セグメント利益の調整額△10,329百万円には、セグメント間取引消去201百万円および各報告セグメントに配分していない全社費用△10,530百万円を含んでいます。全社費用の主なものは、提出会社の基礎研究費、本社管理部門費です。

3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整しています。

4. 第1四半期連結会計期間より、「資産除去債務に関する会計基準」（企業会計基準18号 平成20年3月31日）および「資産除去債務に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第21号 平成20年3月31日）を適用しています。

これにより各セグメントに与える影響は軽微です。

(追加情報)

第1四半期会計期間より、「セグメント情報等の開示に関する会計基準」（企業会計基準第17号 平成21年3月27日）および「セグメント情報等の開示に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第20号 平成20年3月21日）を適用しています。

(6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。

4. 参考情報 (セグメント別補足情報)

売上高および利益または損失の金額に関する補足情報

(単位：百万円)

	売上高			セグメント利益又は損失 (営業利益又は営業損失)		
	平成22年3月期 第3四半期	平成23年3月期 第3四半期	増減	平成22年3月期 第3四半期	平成23年3月期 第3四半期	増減
樹脂	100,194	110,594	10,399	27,450	37,904	10,453
化学品	47,936	56,215	8,279	△97	5,941	6,039
繊維	42,640	45,507	2,866	△1,988	△128	1,860
トレーディング	74,782	85,887	11,104	1,271	2,348	1,077
その他	36,011	42,079	6,068	3,023	3,807	784
調整額	△58,913	△69,856	△10,943	△10,083	△10,329	△245
四半期連結損益 計算書計上額	242,653	270,427	27,774	19,576	39,546	19,970

上記前第3四半期連結累計期間の数値は、独立監査人による四半期レビューを受けていません。